

大阪市立科学館におけるサインの検討、設置について

竹 浦 雅 美 *, 田 中 智 恵 *, 西 野 藍 子 *

概 要

展示改装に合わせて、サイン(案内サイン・誘導サイン等)の見直しを行った。大阪市立科学館では、幅広い年齢層の方々、障がい者、海外からの旅行者など、多様な来館者を迎えている。来館者にさらにやさしく、わかりやすいサインにするため、JIS 規格のピクトグラムやユニバーサルフォントを使用するなどデザインを工夫し、サイン設置場所のシミュレーションを重ねた。本稿では、サインの検討、設置について報告する。

1. はじめに

2022(令和4)年度に策定した大阪市立科学館展示改装基本計画[1]に基づき、展示改装の一環として、サイン(案内サイン・誘導サイン等)の見直しを行った。

展示改装のスローガンは「他にない、みんなで、科学を楽しむ、快適空間の構築をめざして」であり、快適空間の構築のため、幅広い年齢層の方々、障がい者、海外からの旅行者など、多様な来館者にやさしいユニバーサルな設計を目指した。

その実現のため、展示改装事業の3つの柱のひとつ「来館者利用施設の整備」として、安全・衛生的な利用環境、ストレスのない利用環境の整備を進めることとなった。その実施内容のひとつとして、サインの統一デザインが挙げられた。

多様な来館者にとって、これまでよりやさしく、わかりやすいサインの実現を目指して、展示改装業務受託事業者である株式会社丹青社と、デザイン、設置場所について検討を重ねた。その過程を具体例とともに報告する。

2. 各サインの役割と種類

2-1. シンボルサイン

大阪市立科学館のアイデンティティを表現するものであり、館名サインや、プラネタリウムをはじめとする当館の事業内容を表現したグラフィックなどがある。

なお、ロゴマーク等の設定については、本研究報告131 ページ「大阪市立科学館の VI(ヴィジュアル・アイデンティティ) 設定と展開について」を参照されたい。

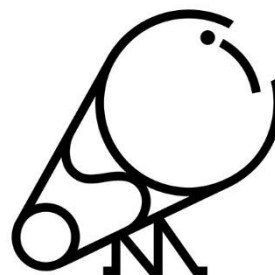


図1. シンボルマーク

2-2. 案内／情報サイン

科学館の全体像を見せ、情報を的確に示すものであり、フロアマップ、各階案内、注意喚起などがある。

2-3. 誘導サイン

目的地まで導く標識であり、柱や袖壁での目的地誘導や、階段の使用を促す誘導、右側通行の方向誘導サインなどがある。

2-4. 目的地サイン

適切なピクトグラムやテキストで目的地を認知させるものであり、「展示場」「プラネタリウム」「チケットカウンタ

*大阪市立科学館

ー」「トイレ」「階段」「エレベーター」など館内の主要設備のサインがこれにあたる。



写真1. サイン検討の様子

3. 表記について

3-1. 多言語表記の考え方

サインは基本的に、日本語・英語・ピクトグラムを使用することとした。言語を増やすことで必要な情報が見つけづらくなることを避けるとともに、2025(令和7)年の大阪・関西万博で主として用いられる2言語(日本語・英語)を参考とした。

ただし、安全や利便性に関わる主要なサイン「入口」「出口」「チケットカウンター」「カフェ」「トイレ」などは、中国語(簡体字)、韓国語を加えた4言語の表記とした。

翻訳については株式会社丹青社にネイティブチェックをお願いした。

3-2. フォント

日本語、中国語(簡体字)、韓国語のフォントには主にユニバーサルフォントを使用した。日本語は「UD 新ゴ コンデンス 80」、中国語(簡体字)は「森澤 UD 新黒 Gb4 DB 85%長体」、韓国語は「모리사와 UD 신고 Ko2 85%長体」である。また、英語には、ドイツの工業規格のフォントで海外の公共機関に多用されている可読性の高いフォント「URW DIN」を採用した。

3-3. ピクトグラム

日本産業規格の案内用図記号(JIS Z8210)を使用した。

3-4. カラー

禁止を表す「赤」、注意喚起の「黄」には、JIS 安全色を使用した。なお、サインの背景に使用する黄色については、当館の VI でキーカラーとなっている黄色(DIC57・C0/M10/Y85/K0)を使用した。

4. 実施事例(一部)

4-1. シンボルサイン

屋外サインは入館前に最初に目にするため、館名やプラネタリウムのグラフィック画像を設置することで、館名の周知はもとより、当館が「科学を楽しむ場」であることをアピールするためのサインとしても活用した。

シンボルサインの一例を以下に示す。



写真2. 屋外館名サイン

ステンレスヘアラインのベースに、館名を切り文字で配置し重厚感と耐候性のあるものとした。



写真3. 屋外硝子ビジュアル

インパクトのあるプラネタリウム画像とメッセージで通行人の目を引くデザインとした。



写真4. 正面玄関グラフィック

投影中は撮影できないプラネタリウムの星空とともに記念撮影が楽しめるデザインとした。

4-2. 案内／情報サイン

案内／情報サインの一例を以下に示す。

4-2-1. フロアテーマサイン／展示場1階～4階

展示場各階のはじめ(エスカレーター降り口周辺)に、フロアテーマサインを設置し、フロアの特徴や現在階をわかりやすく伝えた。フロアごとに見やすい位置を検討し、吊り下げや柱への貼り付けなど設置方法も変えた。



写真5. フロアテーマサイン(展示場2階)



写真6. フロアテーマサイン(展示場1階)

左側に進むと展示場入口のため、右方向に観覧することを伝える「順路」のサインを下部に加えた。

4-2-2. 展示場入口サイン／1階

入場を待つ来館者への情報サインを設置した。

チケットのモチーフをデザインすることで、列に並んでいる来館者へ入場の準備を促し、混雑緩和をねらった。また再入場についてのお知らせも同時に行った。裏側は、展示場入場終了後に使用できるサインとした。



写真7. 展示場入口看板

4-2-3. 展示場ガイド／展示場1階

展示場観覧のためエレベーターを利用する来館者が待ち時間に楽しめるよう、エレベーターホールに設置した。フロアマップは据え付けのものだが、その上からマグネットで「学芸員のおすすめ展示」や期間限定のイベントなどを追加することができ、来館者にその時々に応じたホットな情報を提供できるようになった。



写真8. 展示場ガイド

4-2-4. フロアマップ／各階

各階にその階のフロアマップを、正面玄関には全階のフロアマップを設置した。現在地、目的地を捉えやすいよう、楕円形の建物のかたちを活かし、エレベーターやエスカレーターなどわかりやすい設備をピクトグラムで載せた。また、利用頻度の高い「トイレ」のみ四角、色付きのピクトグラムとすることで、他の設備と区別し、見つけやすくした。

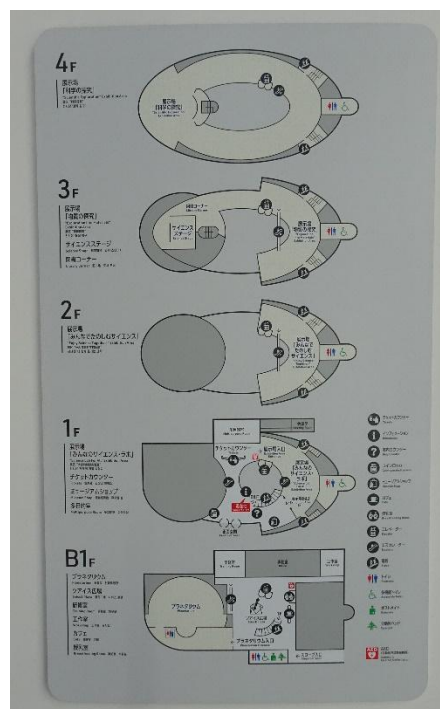


写真9. フロア案内(1階正面玄関)

4-2-5. スロープ入口 フロア案内／地下1階

当館には1階正面玄関のほかに、地下1階にも入口があり、地下1階からの来館者はチケット購入や、展示場の入場のため、1階へ移動してもらう必要がある。

そのため、必要設備がどこにあるのかを表示する館内案内を、大人の目線の高さにサインの中央がくるように、見やすさにも配慮のうえ、設置した。

当初、フロアマップに動線を書き込むサイン案があったが、地下1階の入口からフロアの全体像をつかむことが難しく、入館後、館内の誘導サインをたどることで、目的地にスムーズにたどりつけるものとした。



写真 10. スロープ入口 フロア案内

4-2-6. 開閉注意サイン／各階

扉の開閉注意サインを各ぐり戸に設置した。マグネット式として、必要箇所に速やかに追加できるものとした。



写真 11. 開閉注意サイン

4-3. 誘導サイン

誘導サインの一例を以下に示す。

4-3-1. サイエンスステージサイン／展示場3階

サイエンスステージは渡り廊下の奥にあるため、要所要所にサインを設置し、スムーズにたどりつけるようにした。



写真 12. サイエンスステージサイン

4-3-2. プラネタリウム、トイレサイン／地下1階

地下1階のプラネタリウム、トイレは1階から階段を下り、ちょうど振り向いた反対側にあるが、正面にはサインを貼るのに適当な柱がないため、床面に設置することとした。

また、プラネタリウムについては、JIS 規格のピクトグラムがないため、背景に星空写真を使用することで、デザイン性がありながらも一目で分かるサインとした。



写真 13. プラネタリウム、トイレサイン

4-3-3. 展示場入口・プラネタリウム／1階

床面の材質の都合上、床へのサイン貼り付けが難しいことが分かり、正面玄関から「展示場」「プラネタリウム」への誘導には苦慮した。そこで、正面玄関から入り、目に入りやすいインフォメーションボード左右の腰壁部分に、「展示場入口」、「プラネタリウム」のサインを設置することとした。無機質なサインではなく、背景グラフィックを入れることで、楽しく、目に入りやすいサインを目指した。



写真 14. 正面玄関を入ったところ



写真 15. 展示場入口サイン



写真 16. プラネタリウムサイン

4-3-4. 階段サイン／1階－地下1階

右側通行をうながし、のぼり、くだりで来館者がぶつかることがないようにサインを設置した。「右側通行」と文字どおり記したサインを設置する案なども検討したが、「のぼる」「おりる」の文字を矢印とともに配置し一目で把握しやすいサインとした。設置位置は、駅などのサインを参考に、目線に入る高さにすることで、階段から離れていても、のぼり、くだりが認識できるようにした。

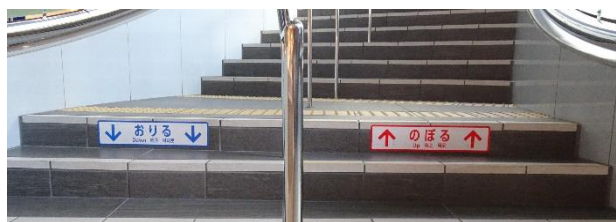


写真 17. 階段サイン(地下1階)



写真 18. 階段サイン(1階)

4-3-5. 多目的室サイン／1階

入口が(階段側とスロープ側の)2つあるため、いずれの入口からも多目的室につながっていることを明確に示した。スロープの突き当りにも「多目的室」の表示をつけた。



写真 19. 多目的室 階段側入口

〔補足〕

スロープを利用される方へ、他の来館者の影に隠れにくい位置に誘導サインをつけた。



写真 20. 多目的室 スロープ側入口

4-4. 目的地サイン

目的地サインの一例を以下に示す。

4-4-1. トイレ／各階

原則、各フロアでデザインを統一した。

従来よりも、トイレのサインを大きく配置し、遠くからでもトイレの位置を確認しやすいものとした。



写真 21. 以前のトイレサイン(展示場4階)



写真 22. リニューアルしたトイレサイン(展示場4階)

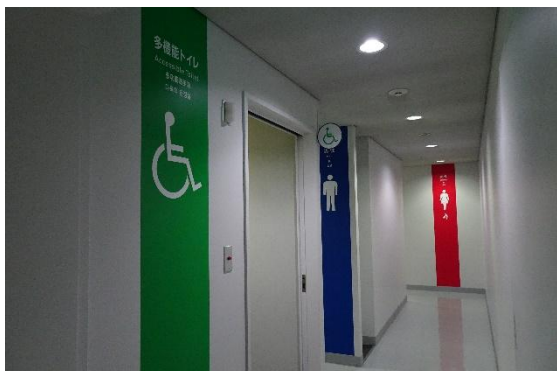


写真 23. リニューアルしたトイレサイン(展示場4階)



写真 24. 多機能トイレ突き出しサイン(展示場4階)
突き出しサインを付けて視認性を高めた。

〔補足〕

展示場4階は広く、トイレがすぐに見つからない可能性があるため、吊り下げの誘導サインも設置した。

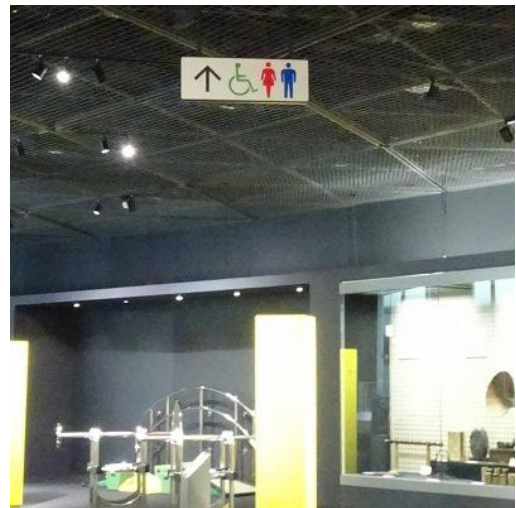


写真 25. トイレ誘導サイン(展示場4階)

4-4-2. エスカレーターの上り専用／1階

正面玄関を入ってすぐにあるエスカレーターは、階下から上がってくるもののため利用できない。進入禁止を大きく表示する案もあったが、威圧感があり、お客様を出迎える正面玄関には適さなかった。その一方で、危険性を知らせる必要があるため、「上り専用」の文字とともに進入禁止マークを記すこととした。



写真 26. 上り専用サイン

4-4-3. チケット／1階

正面玄関から入館し、すぐに目につくよう、サインの大きさや、カラーを試行した。設置場所の都合上、逆光になることもある「Tickets」の文字やピクトグラム部分は、内照で発光し、見やすいものとした。



写真 27. チケットカウンターサイン



写真 28. 「Tickets」切り文字の大きさ検討の様子

4-4-4. 屋外入口サイン／1階、地下1階

入口をわかりやすく知らせるとともに、チケットサイトへの二次元コードを表示することで、Webチケット購入を促し、チケットカウンターの混雑緩和をねらった。



写真 29(左). 屋外入口サイン(1階)

写真 30(右). 屋外入口サイン(二次元コード部分)

4-4-5. 階段／各階

階段を示すピクトグラムを大きく示し、この奥に階段があることをわかりやすくした。アルファベットは階段の名称であり、非常時の案内にも使用するため書き添えている。奥の壁には、フロアのテーマをグラフィックとともに示し、現在階をわかりやすくした。

ピクトグラムは実際の設備の位置関係と矛盾がある場合は反転しての利用が可能のため、実際の階段と合わせ反転して利用した。



写真 31. 階段サイン(4階)



写真 32. 階段サイン(3階)



写真 33. 階段サイン検討の様子

実寸サイズに出力したものでサイズ等を確認した。

4-4-6. 工作室サイン／地下1階

利用者が使用する手前の階段側から見やすい位置に室名を大きく付け、わかりやすくした。

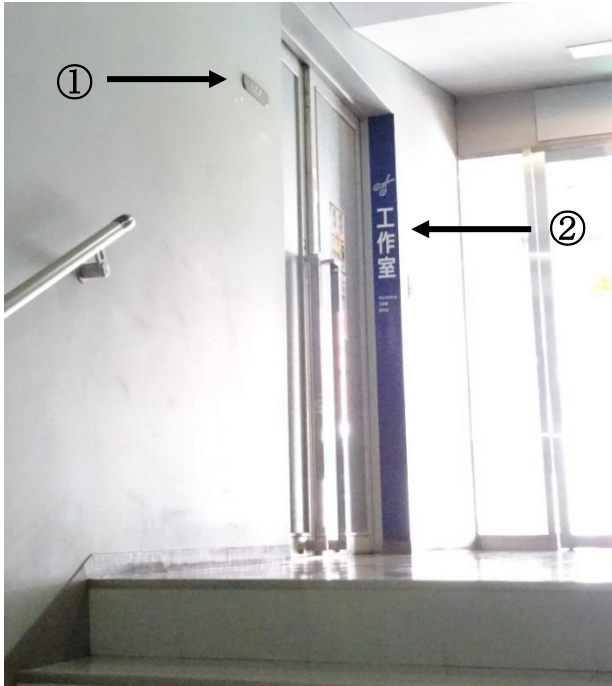


写真 34. 工作室サイン

これまで①の室名サインしかなく、階段方向からの利用者には見つけづかったため②のサインをつけた

4-4-7. エレベーターサイン／(デザイン違い) 各階

展示場は4階までエレベーターで上がり、エスカレーターもしくは階段で下りながら見学する動線である。

2機あるエレベーターのうち1機(右側)は、直通エレベーター、もう1機(左側)は車椅子やベビーカーを利用される方等のため、各階に停止するようになっている。

必要とする人がスムーズに利用できるように、扉やボタンにおいて、それらの区別を表示した。また、多くの来館者が利用するため、汚れが目立たない、傷が付きにくいフィルムを使用した。



写真 35. エレベーターサイン(展示場1階)



写真 36(左). エレベーターボタンサイン(1階)

写真 37(右). エレベーターボタンサイン(2階)

5. まとめ

わかりやすいサインのため、文字の配置等デザインはもちろん、見やすい高さに設置するなど位置の調整、手に触れる場所にはなるべく切り文字を使用しない、材質と設置面の相性や耐久性の確認など、検討事項は多岐に渡った。

また、多様な来館者のそれぞれの目的に応じると、サインが増えていく傾向にあり、本来伝えたい情報が見えづらくなるため、本来の目的を見失わず、優先順位に基づいた選定が大切だと感じた。

また、今回の展示改装はフロアごとに異なる担当者が業務を進めているため、全体の情報共有の大切さを実感した。サインのみ独立して考えるものではなく、各階の雰囲気と調和がとれているか、展示物と干渉しないかなどの確認も必要であり、担当間の連携が重要であった。

6. おわりに

サインを更新したことで、館内全体の表示が統一されすっきりした印象になった。また、リニューアル前と動線が異なっている箇所においても大きな混乱なく、お客様をお迎えすることができている。

来館者と接する機会が多いサイエンスガイド(ボランティア)からも「トイレの場所を聞かれる回数が減った」、「階段の利用者がこれまでより多くなったように思う」との意見があり、トイレや階段サインの効果が表れたと思われる。また、案内スタッフからは、チケット購入から、展示場の入場がスムーズになったとの意見があった。

その一方、展示場の出口から、地下1階のプラネタリウムへの順路を尋ねられることが度々あるということで、今後も引き続き、地下1階への誘導について検討する必要がある。

参考文献

[1] 大阪市立科学館研究報告 33, 77-82(2023)